

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

○平成 26 年度農業農村工学会賞の決定について	58
○平成 27 年度農業農村工学会賞候補の推薦について 締切 10 月 31 日	58
○第 38 回水の週間「ウォーターフェア '14 東京」農業用水の展示出展について	59
○平成 26 年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加のお願い (再) ㊦ 申込締切 6 月 18 日	59
○平成 26 年度「研究グループ」の助成金募集について (再) 申請締切 6 月 30 日	60
○平成 26 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について (再) 申請締切 9 月 12 日	60
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	61
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」 閲読者の氏名公表とご協力のお礼	61
○「農業農村工学会論文集」 査読者の氏名公表とご協力のお礼	62
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!	63
○平成 27 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	63
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」 への投稿お待ちしております !	64
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い	65
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」 への投稿のお願いと 2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ	65
○平成 26 年度東北支部総会・第 57 回東北支部研究発表会ならびに第 47 回東北支部研修会・ 第 37 回地方講習会の開催について (第 1 報) ㊦ 発表申込締切 9 月 5 日	66
○第 65 回関東支部大会の開催について (第 1 報) ㊦ 講演申込締切 7 月 31 日	66
○第 71 回京都支部研究発表会の開催について (第 2 報) ㊦ 発表申込締切 6 月 30 日	67
○平成 26 年度九州沖縄支部第 95 回講演会・第 37 回講習会・シンポジウム・ 現地見学会の開催について (第 1 報) ㊦ 10 月 29, 30 日開催	69
農業農村工学会論文集第 291 号内容紹介	70
学会記事	72

### 第 82 巻第 7 号予定

**展望**：農業農村工学分野におけるリサイクル材の利活用：北辻政文

**小特集**：農業農村整備事業における再生資源の利活用

- ①湖沼やため池底泥の植栽土壌としての利用：西村伸一ほか
- ②ベトナムでのバイオマス利用実証研究からの教訓：柚山義人ほか
- ③浚渫土のセメント改良による他事業への流用について：中村伸二
- ④ホタテ貝殻の暗渠疎水材への利用：横濱充宏ほか

### 技術レポート

北海道支部：TDR 法を用いた融雪後の湛水深のモニタリング：矢崎友嗣ほか

東北支部：開水路補修工の検証：佐藤章悦

関東支部：都市農地の保全における留意事項：関本謙二ほか

京都支部：愛知川地域のストックマネジメント事業について：大菅勝之

中国四国支部：孕みだし変状を有する小断面水路トンネルの機能診断調査：本條忠應ほか

九州沖縄支部：DSM を用いた 3 次元可視化 GIS の事例と効果：内村正臣ほか

**小講座**：農業農村整備事業等における建設副産物利用：三成英正

**私のビジョン**：北の国から「礼内川ダム建設工事と農業との関わり」：藤田 司

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成26年6月28日	技術者教育認定に関する検討委員会	平成26年度JABEE農学系分野審査講習会	—	東京都	82巻5, 6号
平成26年8月26~29日	大会運営委員会	平成26年度農業農村工学会大会講演会	—	新潟市	81巻12号 82巻1,2,3,4号
平成26年10月23日	関東支部	第65回支部大会講演会, 講習会	—	前橋市	82巻6号
平成26年10月29日	北海道支部	第63回研究発表会	—	札幌市	
平成26年10月29, 30日	九州沖縄支部	第95回講演会・第37回講習会・シンポジウム・現地見学会	—	佐賀市	82巻6号
平成26年10月30, 31日	東北支部	平成26年度総会・第57回研究発表会・第47回研修会・第37回地方講習会	—	仙台市	82巻6号
平成26年11月5, 6日	中国四国支部	第69回研究発表会・第38回地方講習会	—	鳥取市	
平成26年11月13日	京都支部	第71回研究発表会	—	岐阜市	82巻4, 6号

## 平成26年度農業農村工学会賞の決定について

平成26年度の農業農村工学会賞は、平成26年5月9日(金)の理事会において、学術賞1件、研究奨励賞3件、技術奨励賞1件、優秀論文賞3件、優秀報文賞2件、優秀技術賞1件、優秀技術リポート賞6件、著作賞1件、教育賞1件、歴史・文化賞1件、地域貢献賞1件、国際貢献賞1件、功労賞4件、上

野賞2件、沢田賞1件が、決定いたしました。授与式は、来る8月26日(火)に新潟市の朱鷺メッセ・メインホールAで行われます。なお、詳細は本号巻頭平成26年度農業農村工学会大会講演会のページをご参照下さい。

## 平成27年度農業農村工学会賞候補の推薦について

平成27年度の農業農村工学会賞(上野賞、沢田賞を除く)を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切は、平成26年10月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照下さい。

## 平成27年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種類	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する研究業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象範囲および期間	平成21年10月から平成26年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成23年10月から平成26年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成23年10月から平成26年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成25年10月から平成26年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文とする。	平成25年10月から平成26年9月までに、本学会の刊行物に発表された報文とする。	平成24年10月から平成26年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書から選ぶ。	平成21年10月から平成26年9月までに、本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者		個人				個人または組織、団体	個人
推薦の方法	正会員及び名誉会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員及び名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。					

賞の種類	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をなしたと認められる業績	農業農村工学教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く紹介、あるいは研究分析した業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術・技術についての、国際的な交流・調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大な功労のあったと認められる者
賞の対象範囲および期間	平成16年10月から平成26年9月までに出版されている一般の図書。ただし、ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあたっては全面改訂したもののみを対象とする。	平成16年10月から平成26年9月までの業績を対象とする。	平成24年10月から平成26年9月までに本学会の刊行物または、関係する図書に発表されたもの。また、完工した建設物、維持保全管理活動等も対象とする。	平成21年10月から平成26年9月までの業績を対象とする。	平成21年10月から平成26年9月までの活動を対象とする。	平成21年10月から平成26年9月までの活動を対象とする。	平成24年10月から平成26年9月までに発表された、農業農村工学に関連した作品を対象とする。	平成26年度末に65歳以上に達している個人
受賞候補者	著者	個人または組織・団体			個人	個人または組織・団体	個人	
推薦の方法	正会員及び名誉会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員及び名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構CPD運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員及び名誉会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員及び名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員及び名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員及び名誉会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員及び名誉会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。	
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	平成26年10月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

## 第38回水の週間「ウォーターフェア'14東京」農業用水の展示出展について

### 農業用水展示実行委員会

「ウォーターフェア'14東京」は例年同様「水の週間」の一つのイベントとして行われます。

今年も「水の展示会」に農業用水部門として、関係団体の協力を得て、農業農村工学会が農業用水展示実行委員会を組織し、昨年までと同様に展示の準備を進め、出展することとなりました。会場は、東京国際フォーラムが開催する丸の内キッズジャンボリーの一部スペースを借りて開催します。

多くの方のご来場をお待ちしております。

記

1. 日 時 平成26年8月12日（火）～14日（木）  
10：00～17：00
2. 場 所 東京国際フォーラム
3. 主 催 国土交通省、東京都、水の週間実行委員会
4. 全体テーマ 健全な水循環により、水の恵みを享受できる社会を目指して

## 平成26年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加のお願い（再）

### 技術者継続教育機構認定プログラム申請中



JABEE に対する農学関係者の一層の理解と JABEE プログラム修了者を受け入れる側の理解と協力を得るため、農学関係学協会が共同で研修会を開催いたします。多くの皆様の参加を期待しております。奮ってご参加下さい。

なお、本研修会は JABEE 公認で、研修会の参加修了者は JABEE 審査員候補者として登録され、本審査のオブザーバー参加を経て審査員の資格が得られます。

1. 日 時 平成26年6月28日（土）9：45～17：20  
(情報交換会 17：20～)

2. 会 場 東京大学弥生講堂  
(東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内)

3. 主 催 農業農村工学会、農学会、森林・自然環境技術者教育会、日本生物工学会
4. 参加費 5,000円（当日、現金で支払い）  
情報交換会費：2,000円（当日、現金で支払い）
5. 申込先 農業農村工学会事務局 花塚あて  
E-mail：hanatsuka@jsidre.or.jp
6. 申込締切 平成26年6月18日（水）
7. プログラム  
9：00～ 受付開始  
9：45～9：50 オリエンテーション  
9：50～10：00 開会の挨拶

10:00~10:50	JABEE 認定制度の考え方と基本方針の説明	14:40~15:30	自己点検書の作成について (休憩)
10:50~11:40	JABEE 認定基準の解説	15:40~16:30	実地審査について
11:40~12:10	各分野の分野別要件の説明 (昼食)	16:30~17:20	質疑応答
13:10~13:50	社会的背景, 技術士制度との関係説明	17:20~	情報交換会
13:50~14:40	認定・審査の手順と方法, 審査手引きの解説		

### 平成 26 年度「研究グループ」の助成金募集について (再)

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則 1 件 20 万円程度、3 件以内です。

本年度の申請締切は、平成 26 年 6 月 30 日 (月) です。助成金を希望される方は期限までに、所定の様式 (学会ホームページ参照) で研究委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

#### 「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請: 学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定: 研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 配布: 研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。
4. 助成対象: 申請できる条件 (助成対象) は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者 (本学会員) をおき、構成員は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が 2 つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に 40 歳未満であること。

5. 活動報告: 助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後 1 年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注 1) 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり 1~2 ページに収まるようにまとめること。

注 2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

### 平成 26 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について (再)

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60 万円程度 (原則 1 件 20 万円以内) です。

本年度の申請締切は平成 26 年 9 月 12 日 (金) です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式 (末尾参照) で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

#### 「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請: 学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。

2. 認定: 研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容 (申請の意義、準備の状況、将来の展望など) を検討して、助成金の配布グループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。

3. 配布: 研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。

4. 助成対象: 申請できる条件 (助成対象) は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割

を対外的に示すことに貢献しうること。

- (ロ)「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員(本学会員以外も可)は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

5. 活動報告: 助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役

立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切: 平成26年9月12日(金)

申込先: 戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail: tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項:

- (1) WG名(または部会名) (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名(仮)
- (5) 研究の目的と内容(500字程度)
- (6) 研究資金申請応募先(予定)

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行: みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替: 00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

「水土の知(農業農村工学会誌)」 閲読者の氏名公表とご協力のお礼

農業農村工学会誌は、昭和4年の学会創立とともに、「農業土木研究」として刊行され、以来、戦中の一時期を除き、多くの方々のご協力により発行を続けてまいりました。

とりわけ、閲読者の方々には多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。

農業農村工学会誌企画・編集委員会では、閲読者への感謝の意を表すべく、平成25年4月から平成26年3月までの一年間

に学会誌の内容充実にご協力、貢献いただきました方々のお名前(五十音順・敬称略)を記し、貢献への証しとさせていただきます。

なお、氏名の公表を辞退されている方もおられることを申し添えます。

今後とも、ご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

栗生田 忠雄	岩間 憲治	兼子 健男	古波蔵 真也	杉山 行男
有田 博之	上田 達己	關 保昌	齋 幸治	鈴木 清次
池浦 弘	大石 二郎	工藤 明	齋藤 邦人	鈴木 正貴
一恩 英二	大塚 秀樹	工藤 庸介	坂田 寧代	清野 修
市川 敬一郎	緒方 英彦	久保 成隆	佐藤 周之	副島 直史
井手 一隆	小倉 力	倉島 栄一	佐藤 泰一郎	瀧本 裕士
稲葉 一成	長利 洋	黒岩 聡	清水 穂高	宅島 淳
井上 一哉	柏木 淳一	桑原 耕一	下川 昇大	田中丸 治哉
井上 京	梶原 義範	小谷 匡	新城 治	谷口 智之
岩崎 隆晴	勝俣 孝	後藤 真宏	進藤 惣治	谷本 岳

田村 孝浩	仲村 元	春山 成子	松井 宏之	山本 裕介
田村 尚大	中村 好男	久貝 一文	松本 伸介	山本 忠男
塚本 康貴	仲山 隆一	人見 忠良	丸居 篤	袖山 義人
辻村 滋	永吉 武志	平松 和昭	皆川 明子	吉田 修一郎
寺尾 和彦	浪平 篤	平松 研	宮下 敦典	吉田 弘明
床次 武富	西村 眞一	藤川 智紀	虫明 晋哉	吉嶺 彰二
豊満 幸雄	野村 賢太郎	藤原 正幸	村松 睦宏	和田 充和
中桐 貴生	橋本 禪	藤元 栄一	谷藤 政弘	
中田 摂子	濱上 邦彦	古谷 保	山口 武彦	
中村 和正	治多 伸介	細川 学範	山路 永司	

### 「農業農村工学会論文集」査読者の氏名公表とご協力のお礼

農業農村工学会論文集は、昭和35年10月発行の「農業土木研究別冊」1号から数えて、平成26年6月には通算291号となります。査読者各位のご支援・ご協力によって、つつがなく刊行できましたことを、深く感謝申し上げます。

農業農村工学会論文集企画・編集委員会では、査読者への感謝の意を表すべく、平成25年4月から平成26年3月までの一年間に投稿原稿を査読され、論文集に掲載されるにふさわしい

内容の維持にご協力いただきました方々のお名前（五十音順・敬称略）を記し、貢献への証しとさせていただきます。

なお、氏名の公表を辞退されている方もおられることを申し添えます。

今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

粟生田 忠雄	加藤 亮	高松 利恵子	長野 宇規	藤原 洋一
青山 咸康	亀山 幸司	瀧本 裕士	中村 公人	星川 圭介
赤江 剛夫	北川 巖	竹内 潤一郎	中村 真人	星野 敏
安瀬地 一作	北辻 政文	竹内 晴信	永山 滋也	堀 俊和
東 淳樹	木原 康孝	竹下 伸一	西田 和弘	本多 剛
飯田 俊彰	栗田 英治	武田 育郎	西田 一也	本間 新哉
石井 敦	黒田 清一郎	竹村 武士	西村 伸一	前田 健一
石井 将幸	黒田 久雄	武山 絵美	西村 眞一	前田 滋哉
石黒 覚	小出水 規行	田代 優秋	西山 竜朗	牧野 知之
石黒 宗秀	小寺 昭彦	田中 良和	登尾 浩助	松井 宏之
泉 完	小林 晃	田中丸 治哉	橋本 禪	松尾 芳雄
伊藤 健吾	小林 幹佳	谷口 智之	服部 俊宏	松島 亘志
稲垣 仁根	駒村 正治	樽屋 啓之	濱 武英	丸山 利輔
井上 一哉	近藤 雅秋	近森 秀高	濱上 邦彦	三浦 憲蔵
井上 敬資	斎藤 広隆	長 裕幸	原口 暢朗	溝口 勝
上田 達己	酒井 一人	徳本 家康	原田 昌佳	三石 正一
宇波 耕一	坂井 勝	友正 達美	東 孝寛	三野 徹
遠藤 和子	佐藤 周之	取出 伸夫	平松 研	皆川 明子
大西 健夫	佐藤 政良	中尾 誠司	福本 昌人	宮本 輝仁
岡島 賢治	澤田 豊	長尾 誠也	藤井 秀人	宮本 英揮
緒方 英彦	重岡 徹	中川 啓	藤岡 正博	武藤 由子
小川 茂男	柴田 俊文	中桐 貴生	藤川 智紀	村岡 敬子
奥野 倫太郎	清水 克之	長坂 貞郎	藤澤 和謙	村上 章
奥山 武彦	珠玖 隆行	中嶋 勇	藤田 信夫	毛利 栄征
柿野 亘	鈴木 哲也	中田 和義	藤山 宗	森 淳
角道 弘文	高瀬 恵次	中野 恵子	藤原 鉄朗	森 洋

森 充 広	安 延 久 美	山 本 忠 男	吉 田 貢 士	若 杉 晃 介
森 井 俊 広	山 岡 賢	弓 削 こ ず え	吉 田 武 郎	渡 辺 晋 生
諸 泉 利 嗣	山 路 永 司	吉 川 夏 樹	吉 永 育 生	

### 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま安価に取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 CPD を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加下さい!!

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

#### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

#### 2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

#### 3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

#### 4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 11 月号掲載の問題は 12 月末日が解答期限）

#### 5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 CPD を、7~9 問正解で 1.5 CPD を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。）

#### 6. 自動登録の時期

取得した CPD は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

### 平成 27 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 27 年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

#### 趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

#### 1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」

#### 2. 対象巻号 学会誌第 83 巻（平成 27 年 1~12 月号）

#### 3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限り画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき 20MB 以下とし、形式は JPEG のみに限定します。

#### 4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

#### 5. 締切 春季 平成 26 年 6 月 30 日

夏季 平成 26 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限り

#### 6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

#### 7. 結果発表

学会誌第 83 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 27 年度全国大会会場でパネル展示します。

#### 8. 謝 礼

採用作品には規定の賞金（1 点につき 3 万円）をお支払いします。また、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

#### 9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙

写真由来)」をご執筆いただきます。詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

#### 10. 使用権

採用作品の使用権は(公社)農業農村工学会に属します。

#### 11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)が採用の条件となります。

#### 12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称(固有名称)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

### 「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!

#### 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

#### 学会誌 82 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
82巻 7号 農業農村整備事業における再生資源の利活用(仮)	公募終了
8号 農業農村整備事業における気候変動への対応および貢献(仮)	公募終了
9号 これからの“むらづくり”と“まちづくり” ーグローバル時代におけるローカル・コミュニティの創造ー(仮)	公募終了
10号 農地の集積と大区画化が目指すもの(仮)	公募なし
11号 先人たちが拓いた田畑, 施設, 水遣いの今ー世代をこえて引き継がれる財産(仮)	6月16日
12号 国土強靱化に資する農業水利施設の更新技術の今(仮)	7月15日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

#### 82巻11号テーマ「先人たちが拓いた田畑, 施設, 水遣いの今ー世代をこえて引き継がれる財産」(仮)

農業土木事業では、多くの先人たちが水や道を引き農地を拓き整備してきました。その農地の多くは、食糧生産の場となるだけでなく、地域の特産品を育てたり、加工原料の生産拠点となるなど幅広く活用されています。また、古い歴史をもつ農業水利施設は、農地へ灌漑用水を供給する機能を効果的に発現するために、材料、構造、水遣いなどにさまざまな工夫と地域の独自性が見られます。これら施設や水利慣行は、多くが共同作業による継続的な維持管理と伝承により守られてきたと考えられます。

しかし、現在では、後継者不足や農地を取り巻く周辺環境の変化に伴い、農業を基盤に形成されてきた地域の歴史、水利シ

ステムの役割と維持管理の意味が次の世代へと継承されにくくなっている状況にあり、インフラの維持が課題となっています。そのような状況下で、農業土木事業の役割を見つめ直し、農業水利施設や整備後の圃場がどのように受け継がれ、活用されているかを知ることは大切なことではないでしょうか。

そこで本小特集では、それぞれの時代のニーズに応じて整備されてきた農地、農業水利施設、伝統的な水遣いの紹介、それらがこれまでどのように活用され、地域に貢献してきたか、そして保全や継承、新たな活用に関する事例について広く報文を募集します。

## 82 卷 12 号テーマ「国土強靱化に資する農業水利施設の更新技術の今」(仮)

戦後復興時の食料増産施策および高度経済成長に合わせて整備されたわが国の農業水利施設の多くが更新時期をすでに迎えています。基幹的農業水利施設のうち、すでに耐用年数を超過した施設が約 2 割 (再建設費ベース) を占めており、管水路の破裂など、施設の経年劣化に起因する突発事故が多発化の傾向にある中、施設の補修・更新を効率的かつ適切に進めていく必要があります。

また、大規模地震や集中豪雨など、これまでの想定を超える規模の自然災害が頻発していますが、南海トラフ地震の被害想定エリアには全国の農業水利ストックの約 3 割が存在するともいわれており、施設の維持更新に当たっては、地震や豪雨災害

などへの対応も求められています。

このような中、これまで数多くの更新技術が考案され、施工実績を積み重ねており、またこれに付随して、施設の経年による老朽化 (物理的劣化) とそれに伴う機能・性能の低下を診断するセンシング・モニタリング技術や、将来の維持補修費を的確に予測する LCC などの経済評価なども数多く提案されています。

そこで本小特集では、自然災害に対する耐災診断技術や耐災補強技術をはじめとする、農業水利施設の更新事業における、施工技術や診断技術などに関する報文を広く募集します。

### 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが 1.025 と高く、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)

- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

出版社 : Springer-Japan 社

発行スケジュール : 年 4 回

購読料 : 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

申込先 : 農業農村工学会編集出版部 中村あて

### 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2014 年 4 月に Vol.12, No.2 が発行されました。

本ジャーナルは 2009 年 12 月より、トムソン・ロイター社の SCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIE の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルは IF=1.025 と高い評価を得ております。

また、世界 14 カ国から Editor (23 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical

Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年 4 回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員で PWE 誌の購読者に限りませんが、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局は日本です。  
投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) をご利用下さい。

編集事務局 : Dr. Yoshiyuki SHINOGI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University.

6-10-1 Hakozaki Higashi-Ku, Fukuoka-shi, 812-8581 Fukuoka, Japan

TEL : + 81-92-642-2909 FAX : + 81-92-642-2914

E-mail : yshinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp

**編集方針**：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

#### 編集体制

- ・ **Editor-in-Chief** : Dr. Masaru MIZOGUCHI (Japan)  
Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan
- ・ **Editors** 14 カ国から 23 名
- ・ **Editing Board** 26 名
- ・ **Chief Management Editors**  
Dr. Yoshiyuki SHINOGI  
The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan  
Dr. Jin Yong CHOI  
Department of Landscape Architecture and Rural Sys-

tem Engineering, Seoul National University, Korea

#### ・ Managing Editors

**Dr. Haruhiko HORINO**

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

**Dr. Kazunari FUKUMURA**

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

**Dr. Yu-Pin LIN**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

**Dr. Ming-Daw SU**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

**出版社**：Springer-Japan 社

**投稿資格**：筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

**投稿要領等**：<http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

### 平成 26 年度東北支部総会・第 57 回東北支部研究発表会ならびに 第 47 回東北支部研修会・第 37 回地方講習会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. **期 日** 平成 26 年 10 月 30 日 (木), 31 日 (金)
2. **会 場** ハーネル仙台  
〒980-0014 仙台市青葉区本町 2-12-7  
TEL : 022-222-1121 FAX : 022-222-1126
3. **研究発表の申込み・原稿受付期間**  
平成 26 年 8 月 4 日 (月) ~ 9 月 5 日 (金)

4. **問合せ先**  
〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立 2-2-1  
宮城大学食産業学部環境システム学科  
神宮字または千葉まで  
TEL : 022-245-2211 (代)

5. **その他**  
詳細は本誌 7 月号に掲載予定です。

### 第 65 回関東支部大会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. **日 時**  
支部大会講演会, 講習会, 情報交換会  
平成 26 年 10 月 23 日 (木) 時間未定
2. **場 所**  
(1) 支部大会講演会, 講習会  
群馬県市町村会館  
〒371-0846 群馬県前橋市元総社町 335-8  
TEL : 027-290-1366  
(2) 情報交換会 未定
3. **参加申込み**  
(1) 講演会, 情報交換会  
上記申込締切日：平成 26 年 8 月 29 日 (金)  
(2) 講演申込み

申込締切日：平成 26 年 7 月 31 日 (木)

原稿締切日：平成 26 年 8 月 29 日 (金)

講演申込み希望者は、「講演者所属および氏名」、「演題 (仮題でも可)」、「講演要旨 (200 字以内)」を明記のうえ、下記事務局までお申し込み下さい。

4. **問合せ先 (事務局)**  
群馬県農政部農村整備課 吉田, 高山  
〒371-8570 群馬県前橋市大手町 1-1-1  
TEL : 027-226-3163 FAX : 027-224-8744  
E-mail : nnkantotaikai@pref.gunma.lg.jp

5. **その他**  
詳細は本誌 7 月号に掲載予定です。

## 第71回京都支部研究発表会の開催について（第2報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



## 1. 研究発表会

- (1) 日時 平成26年11月13日（木）  
10:00～17:00（受付開始9:00～）
- (2) 会場 ホテルグランヴェール岐山  
〒500-8875 岐阜市柳ヶ瀬通6-14  
TEL: 058-263-7111（代）
- (3) 会場までのアクセス

## 【徒歩】

- ・JR岐阜駅（北口）より北へ徒歩15分
- ・名鉄岐阜駅（中央改札口、東改札口）より北西へ徒歩15分

## 【バス利用】

- ・JR岐阜駅：駅北口バスターミナル9番乗り場（北口右側）よりC70岐阜大学または岐阜大学病院行きに乗車（所要約9分）柳ヶ瀬西口下車、北東へ徒歩2分
- ・名鉄岐阜駅：駅前バス停5番乗り場（駅の向かい側）よりC70岐阜大学病院行きに乗車（所要約7分）柳ヶ瀬西口下車、北東へ徒歩2分

## 【タクシー利用】

- ・JR岐阜駅、名鉄岐阜駅より約5分

## 2. 情報交換会

- (1) 日時 平成26年11月13日（木）18:00～20:00
- (2) 会場 ホテルグランヴェール岐山  
〒500-8875 岐阜市柳ヶ瀬通6-14  
TEL: 058-263-7111（代）

## 3. 現地研修会

- (1) 日時 平成26年11月14日（金）  
9:00発 16:00着  
岐阜駅北口 十六プラザ前バスターミナル発着
- (2) 内容  
濃尾平野の水の利用や水との関いの歴史などを知っていただくために以下の施設を見学していただきます。

①県営広域農道整備事業 西南濃3期地区  
(不破郡関ヶ原町)

岐阜県では、天下分け目の合戦が行われた関ヶ原町から県内の穀倉地帯である津市を結ぶ広域農道を整備しています。現在、関ヶ原町地内において施工中の名神高速自動車国道の函渠横断工事（HEP & JES工法）を見学いただきます。

## ②津市歴史民俗資料館（津市）

輪中の歴史や生活文化の展示と高須松平藩の館の一部を復元した施設です。輪中低地である津市で行われた掘田での営農の様子や、輪中地区における水との関い、生活に対する知恵などをご覧いただけます。また、資料館より見渡

すことのできる大区画に整備された約3,000haの水田では、大型機械による営農が行われています。

## ③千代保稲荷神社（津市）

商売繁盛や家内安全の神様で「おちよぼさん」の愛称で親しまれています。一年を通じ多くの参拝客が訪れ、商店が並ぶ門前町も多くの参拝客でにぎわっています。神社および門前町を散策いただき、ここでご自由に昼食をとっていただきます。

## ④県営湛水防除事業 逆川地区 正木排水機場（羽島市）

輪中地域にある本地区は、江戸初期に築かれた尾張国御囲堤の影響のため、木曾川の洪水の脅威に常にさらされてきた地域です。江戸時代中期に幕命により薩摩藩が実施した宝暦治水に始まり、数々の治水対策事業が実施されています。現在、県営湛水防除事業 逆川地区において正木排水機場の改修工事が実施されておりますので、その現場を見学いただきます。

⑤犬山頭首工と県営かんがい排水事業岐阜中流地区  
(各務原市)

日本有数の面積を誇る濃尾平野を潤す灌漑施設である犬山頭首工などが「国営濃尾用水土地改良事業」により整備され、現在も安定した用水供給がされています。

本頭首工より取水された用水を利用している県営かんがい排水事業「岐阜中流地区」で整備した配水池より、眼下に広がる木曾川および犬山頭首工、国宝犬山城、全国でも珍しいニンジンの二期作の畑などを一望していただきます。

## 4. 研究発表申込み

研究発表者は、投稿原稿に先立ち、6月末日までに、①表題（仮題でも可）、②発表者名、所属、年齢、③連名者名、所属、年齢、④希望発表部門（水理、水文・気象、土壌物理、土質力学、応用力学、材料・施工、施設管理・更新、灌漑排水、農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態環境、地震・その他）、⑤発表者の連絡先電話番号、⑥発表者のメールアドレスを簡条書きにしたメールを下記の発表申込先・石川県立大学藤原あてにご送付下さい（件名を「発表申込み」として下さい）。メールアドレスをお持ちでない場合はCD（txtファイル）を郵送下さい。

## 5. 投稿原稿申込み

- (1) 原稿投稿先および期限

研究発表申込みをされた方は、下記(2)の投稿要領に基づき作成した講演要旨原稿（PDFもしくはWordファイル）と投稿票（Excelファイル）を、平成26年7月末日までに、下記・石川県立大学藤原あてにメールにて発表原稿と投稿票をご送付下さい。

様式は、<http://www.jsidre.or.jp/shibu/kyoto/>よりダウンロードして下さい。

※申込みは電子投稿のみで結構です。受信時に事務局より受信確認メールを返信いたします。メールの着信がご不安な方は、メールの開封確認機能をご利用下さい。

〒921-8836 石川県野々市市末松1-308  
石川県立大学生物資源環境学部 藤原洋一  
TEL: 076-227-7479  
E-mail: yfuji@ishikawa-pu.ac.jp

## (2) 投稿要領

- ・発表者は、農業農村工学会会員とします。
- ・投稿要領および原稿の書式については、農業農村工学会ホームページ京都支部内の「発表申込票(投稿票)と投稿要領」(<http://www.jsidre.or.jp/shibu/kyoto/>)を参照して下さい。
- ・枚数は図面を含めて2枚とします。
- ・発表時間は12分(質疑応答は3分)です。
- ・原稿はそのまま印刷しますので、鮮明なものを提出して下さい。
- ・発表の補助道具としてパソコン(OSはWindows7, ソフトはPowerPoint2010)を準備します。
- ・データはCD-R, USBメモリーでご用意下さい。(OHP, ビデオプロジェクタを希望する場合はご連絡下さい。)

## 6. 参加申込み

### (1) 参加申込み

参加申込みは、農業農村工学会ホームページ内の「京都支部研究発表会の開催について」(<http://www.jsidre.or.jp/shibu/kyoto/>)にアクセスし、参加申込み願います。

FAX または郵送にて申込みされる方は上記にアクセスし、参加申込書をダウンロードし、必要事項を記載の上、下記「7. 申込み・振込先・問合せ先」の申込み先まで送付願います。

### (2) 申込期限 平成26年8月29日(金)

- (3) 参加費等 研究発表会 4,500円  
情報交換会 5,000円  
現地研修会 3,000円(昼食代は除く)

### (ア) 昼食

研究発表会の会場周辺では昼食をとる場所が少ないので、弁当を1,000円/個(税込み・お茶付)で事前予約にて受け付けています。ご希望の方は参加申込書にてお申

込み下さい。

なお、現地研修会では、千代保稲荷神社門前町で自由に食事をとっていただきます。

### (イ) 参加費の納入

申込みを受け付けた後、(株)JTB中部 岐阜支店より9月中に確認書・請求書を送付いたしますので、内容を確認のうえ、参加費を「7. 申込み・振込先・問合せ先」の振込先へ平成26年10月17日(金)までにお振り込み下さい。振込手数料については振込人負担でお願いします。

なお、納入された参加費については、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承下さい。

## (4) 宿泊施設の斡旋

宿泊の斡旋は、(株)JTB中部 岐阜支店を通じて行います。

ご要望の方は、農業農村工学会ホームページ内の「京都支部研究発表会の開催について」(<http://www.jsidre.or.jp/shibu/kyoto/>)の参加申込みフォーム、またはダウンロードされた参加申込書にて、希望のホテルをお選びいただき、参加申込みに併せて申し込み願います。

なお、客室数の都合上、ご希望に添えない場合がございますのでご了承下さい。

## 7. 申込み・振込先・問合せ先

### (1) 申込み・問合せ先

(株)JTB中部 岐阜支店「第71回農業農村工学会京都支部研究発表会担当」

担当: 宮林

〒500-8833 岐阜市神田町9-27 大岐阜ビル2階

TEL: 058-264-7911 FAX: 058-262-3641

営業時間: 平日9:30~17:30(土日祝日休業)

### (2) 振込先

金融機関: 三菱東京UFJ銀行

支店名: 振込集中錦支店

口座番号: 普通口座 5555182

口座名: 第71回農業農村工学会京都支部研究発表会

## 8. 事務局

岐阜県農政部農地整備課内

第71回農業農村工学会京都支部研究発表会 開催地事務局

担当: 若山, 近澤, 桐本

TEL: 058-272-1111(内線3169, 3189)

FAX: 058-278-2701

E-mail: c11431@pref.gifu.lg.jp

平成 26 年度九州沖縄支部第 95 回講演会・  
第 37 回講習会・シンポジウム・現地見学会の開催について（第 1 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日

- (1) 講演会（口頭発表・ポスター発表）  
平成 26 年 10 月 29 日（水）
- (2) 講習会・シンポジウム・現地見学会  
平成 26 年 10 月 30 日（木）

2. 会 場

ホテルグランデはがくれ  
〒840-0815 佐賀市天神 2-1-36 TEL：0952-25-2212

3. プログラム, 申込方法等

第 2 報で詳細をお知らせします。なお、講演会への投稿締切は 8 月 31 日（日）です。

4. 問合せ先

佐賀県県土づくり本部農山漁村課計画調整担当 江口, 副島  
〒840-8570 佐賀市城内 1-1-59  
TEL：0952-25-7124 FAX：0952-25-7284

資格試験のための 農業農村工学必携

公益社団法人 農業農村工学会 編

本書は「改訂七版 農業農村工学ハンドブック（平成 22 年発行）」を再編集してコンパクトにまとめたものです。

資格試験に挑戦する人にとっては農業農村工学の全容を短時間で確認するテキストとして、また、農業農村工学を学ぶ学生にとっては教科書として利用できるものです。

さらに要所には、資格試験で過去に出された問題を確認テストとして挿入しており、理解度の自己点検も行える内容となっています。

主要目次

[本編]

- 第 1 部 農業農村工学概説
- 第 2 部 農業農村の整備計画
- 第 3 部 設計・施工
- 第 4 部 管理
- 第 5 部 事業の施行

[基礎編]

- 第 1 部 数学・情報
- 第 2 部 土
- 第 3 部 水
- 第 4 部 基盤
- 第 5 部 農業・環境
- 第 6 部 社会
- [索引]



体裁：B5 判 約 550 ページ  
定価：2,777 円  
(税込・送料学会負担)

発行：公益社団法人 農業農村工学会  
TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494 E-mail：suido@jsidre.or.jp  
学会ホームページ：http://www.jsidre.or.jp/